



夢を、貧困につぶさせない。 子供の未来応援国民運動

平成 28 年子供未来応援ネットワーク事業完了報告

一般社団法人育みの会
代表理事 内藤 陽一

1. 事業対象期間：平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日

2. 事業計画

①子ども食堂事業の開催

(1) 時期：2016 年 9 月～2017 年 9 月 計 65 回

(2) 場所：甲府市 2 か所（東地区、山城地区）

(3) 対象者：1 回子ども（幼児から高校生まで）15 名以上、保護者 5 名以上

(4) 内容：調理を中心とした子ども食堂を行います。その際に調理のレクチャー、食べ物の栄養素、衛生管理について学んでもらいました。開催は 2 部パートとなっており、第 1 部が調理主体、第 2 部については、楽しく歓談しながらみんなで食べるという内容です。こと 2 部においては孤食の解消と、子ども達に不足がちの栄養素を摂って頂けるように配慮しました。

②児童養護施設の退所者支援事業の開催

(1) 時期：2016 年 9 月～2017 年 9 月 計 13 回

(2) 場所：児童養護施設あいむ（山梨県甲府市飯田）

(3) 対象者：年度末に施設を退所する子ども 4 名

(4) 内容：社会に出て 1 人で自立できるように、調理のレクチャー、食べ物の栄養素、衛生管理について学んでもらいました。

③おとな食堂事業の開催

(1) 時期：2016 年 9 月～2017 年 3 月 計 7 回

(2) 場所：法人事業所

(3) 対象者：子育て中の保護者 10 名程度

(4) 内容：子育ての悩み、進路の悩み等を保護者を対象に語り合い、お互いに顔なじみの関係の構築や助け合いの精神を育んでいくことを目的としました。また住んでる地域での孤立化を予防することも目的としました。

④学校用品のリサイクル事業の SA (School article) バンクの開催

(1) 時期：2016 年 9 月～2017 年 9 月 日曜日祝日を除く毎日

(2) 場所：甲府市

(3) 対象者：小学生から高校生とその保護者

(4) 内容：家庭で眠っている学校用品（文房具、学校指定用品、制服、体育着等）を学校や PTA に呼びかけ、集めていきました。集まったものは、貧困等の支援の必要な家庭に対し配布しました。

3. 平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日の活動状況

こども食堂の活動について

- ① ひがしちこ子ども食堂（ぴゅあ総合 2 階調理室開催）東地区
 - ② 四葉子ども食堂 （地域密着型特別養護老人ホーム・1F デイルーム）山城地区
- ※途中フォーリーブスふれあい食堂に名称変更しました。
- ③ 出張ひがしちこ子ども食堂プラス

事 業 名	日 時	参加者人数		見学・観察人数
		子ども	大人	
第 11 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 9 月 3 日 (土) 17 時 30 分～20 時	8	0	0
第 12 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 9 月 17 日 (土) 16 時～20 時	20	4	1
第 13 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 10 月 1 日 (土) 17 時 30 分～20 時	3	0	0
第 14 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 10 月 22 日 (土) 16 時～20 時	7	1	0
第 15 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 11 月 12 日 (土) 16 時～20 時	8	0	8
第 16 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 11 月 19 日 (土) 17 時 30 分～20 時	12	0	2
第 2 回四葉子ども食 堂	平成 28 年 11 月 23 日 (水) 17 時～19 時	3	0	0
第 17 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 12 月 3 日 (土) 16 時～20 時	12	4	0
第 18 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 28 年 12 月 24 日 (土) 11 時～20 時	26	0	2
第 19 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 29 年 1 月 7 日 (土) 16 時～20 時	9	0	
第 20 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 29 年 1 月 21 日 (土) 16 時～20 時	11	0	1
第 21 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 29 年 2 月 4 日 (土) 16 時～20 時	13	2	
第 22 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 29 年 2 月 18 日 (土) 16 時～20 時	11	0	
第 23 回ひがしちこ 子ども食堂	平成 29 年 3 月 4 日 (土) 16 時～20 時	16	0	

次ページに続く

事業名	日 時	参加者人数		見学・視察人数
		子ども	大人	
第 24 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 3 月 18 日 (土) 16 時～20 時	20	3	13
春休み企画ひがしつこ 子ども食堂プラス	平成 29 年 3 月 25 日 (土) 15 時～20 時	15	1	5
出張ひがしつこ 子ども食堂プラス	平成 29 年 4 月 1 日 (土) 10 時～15 時	21	6	0
第 25 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 4 月 8 日 (土) 16 時～20 時	29	8	4
第 26 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 4 月 22 日 (土) 16 時～20 時	19	7	0
第 27 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 5 月 13 日 (土) 16 時～20 時	32	7	2
第 28 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 5 月 27 日 (土) 16 時～20 時	20	4	3
第 29 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 6 月 3 日 (土) 16 時～20 時	25	6	2
第 1 回フォーリープ スふれあい食堂	平成 29 年 6 月 11 日 (日) 10 時～14 時	6	12	
第 30 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 6 月 24 日 (土) 16 時～20 時	19	2	
第 31 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 7 月 8 日 (土) 16 時～20 時	36	4	
第 2 回フォーリープ スふれあい食堂	平成 29 年 7 月 9 日 (日) 10 時～14 時	10	25	
第 32 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 7 月 22 日 (土) 16 時～20 時	18	1	
出張ひがしつこ 子ども食堂プラス	平成 29 年 8 月 3 日 (木) 10 時～15 時	2	0	
第 3 回フォーリープ スふれあい食堂	平成 29 年 8 月 6 日 (日) 10 時～14 時	6	7	
第 33 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 8 月 12 日 (土) 16 時～20 時	18	0	3
第 34 回ひがしつこ 子ども食堂	平成 29 年 8 月 26 日 (土) 17 時 30 分～20 時	9	1	7

次ページに続く

事業名	日時	参加者人数		見学・視察人数
		子ども	大人	
第35回ひがしちこ 子ども食堂	平成29年9月2日(土) 16時～20時	12	5	0
第4回フォーリーブ スふれあい食堂	平成29年9月10日(日) 10時～14時	12	26	0
第36回ひがしちこ 子ども食堂	平成29年9月16日(土) 16時～20時	8	6	0
合計		496	142	53



「この事業に関する状況について」

継続的に参加されているリピーターの数が8人くらいであり、うち2人は片親世帯の子どもであります。事業を継続していくうちに、最初は託児所や放課後児童クラブの感覚で預ける保護者もみられていましたが、子ども達が自発的に参加したい気持ちへと変化が見られました。また子ども達から家庭の状況について、スタッフに愚痴をこぼす事も増えており、地域の信頼できる大人達との認識も芽生えて、様々な社会課題の発見につながりました。

参加している子ども達対象に定期的にアンケート調査を実施し、活動の質の改善を図りました。

事業対象期間内に、都留文科大学のボランティアスタッフや地元中学校の学生さんが、ひがしちこ子ども食堂の活動の際にアンケート調査を実施しております。

活動を継続するには、PDCAサイクルの手法により子ども達にも自主的に継続して参加できる対応が必要不可欠でございます。

活動の広報活動については、ホームページとFacebookを利用しインターネット上で行う広報と、別表1に記載しました広報活動と協力要請の活動を実施しました。また別紙添付させて頂きました、フライヤーチラシを1,000部作製し、地元はもとより、開催場所のぴゅあ総合や協力団体に配布し活動を広めてまいりました。

リピーター世帯からFacebookの登録や利用をしていないので、わかりにくいという意見があり、コミュニケーションツールである「LINE」でのグループの立ち上げの要請がありました。現在稼働している状況です。現在このグループの登録者はスタッフ、ボランティアスタッフ、保護者を含めて29人（平成29年9月26日現在）となっております。これにより、素早く保護者への情報伝達できる様になりました。

平成 28 年 12 月 3 日開催時に、保護者から A さんを中心に現在住んでいる地域（甲府市舞鶴小学校の学区）の保護者に口コミで紹介していますと発言があり、LINE での情報を拡散して頂いている状況を確認することができました。

ホームページと Facebook、LINE を通じての広報活動で、3 連休の中日にも関わらず、子ども 22 名が参加しました。LINE での波及効果が大きく、甲府市の西隣の甲斐市から子ども 5 名、保護者 1 名、南に隣接する中巨摩郡昭和町より 1 名の参加がありました。

波及効果が生まれ、甲斐市社会福祉協議会様との連携による、「出張ひがしつこ子ども食堂プラス」を期間内で



コミュニケーションツール「LINE」を使った情報伝達。

2 回開催することができました。今後についても年末に出張依頼の要請を受けることとなりました。

別表 1 広報及び協力要請活動

日時	場所	内容
平成 28 年 9 月 19 日 AM9 : 00～PM2 : 00	児童養護施設あいむ 甲府市下飯田 2-5-5	池田ふれあいマルシェへの参加 本来食育活動を実施予定でしたが、雨天のため、 ひがしつこ子ども食堂の広報活動に変更をし実施 育みの会 内藤・山川参加
平成 28 年 10 月 21 日 PM2 : 00～PM3 : 30	甲府市南部公民館 甲府市下今井町 15	甲府市東ブロック社会福祉協議会 第 1 回東ブロック会議での事例発表 出席者 23 名 育みの会 内藤・山川参加
平成 28 年 11 月 12 日 PM7 : 00～PM8 : 30	甲府市総合市民会館 甲府市青沼 3-5-44	甲府市主催「第 6 次甲府市総合計画説明会」の席で 市長と市民の対話の際、「ひがしつこ子ども食堂」につ いて、樋口雄一市長への提言を行う。 地域住民参加者約 100 名 育みの会 内藤、山川、望月、丸山
平成 28 年 12 月 15 日 PM2:30～PM3 : 00	山梨県社会福祉協議会 甲府市北新 1-2-12	ひがしつこ子ども食堂の活動紹介 同席者・事務局次長 横森様 生活支援課 課長補佐 進藤様 育みの会 内藤

平成 28 年 12 月 20 日 AM9 : 00～AM10 : 00	甲府市子ども未来部 甲府市丸の内 1-18-1	子ども食堂を中心とした活動についての報告及び協力についての協議を行う。甲府市としても何かしなくてはいけないと発言があった。 子ども食堂の開催場所については、甲府市でも探して支援を考えていきたいと発言があった。 今後も双方で協議を続けて参画していく。 同席者・甲府市子ども未来部部長 田中様 甲府市子ども未来部子ども未来総室 子育て支援課課長 砂長様 育みの会 内藤、山川、望月
平成 29 年 3 月 18 日 PM4 : 00～PM4 : 30	ぴゅあ総合調理実習室 甲府市朝氣 1 丁目 2-2	山梨県に来訪しておりました、塩崎元厚生労働大臣と宮川衆議院議員、樋口甲府市長、甲府市子ども未来部田中部長、砂長課長がひがしちこ子ども食堂を視察して頂きました。



平成 29 年 5 月 18 日 14 時～15 時	ぴゅあ総合団体連絡室 甲府市朝氣 1 丁目 2-2	甲府市女性団体連絡協議会様記念講演にて、20 名の前で、ひがしちこ子ども食堂を紹介。 育みの会 内藤、山川
平成 29 年 6 月	甲府市東地区	甲府市東地区社会福祉協議会様の広報誌「東地区社協だより」に活動を掲載して頂きました。
平成 29 年 6 月 10 日 15 時～16 時	ホテル古柏園 笛吹市石和町市部 822	山梨県社会教育の会様の総会にて、ひがしちこ子ども食堂の活動の講演を行いました。参加者 30 名 育みの会 内藤
平成 29 年 6 月 26 日 10 時～11 時	山梨県立青少年センター 甲府市川田町 517	甲府市小中学校 PTA 連合会様の母親委員会の学習会の講師として、ひがしちこ子ども食堂の活動を発表しました。参加者 50 名 育みの会 内藤、山川
平成 29 年 6 月 27 日 15 時～16 時	山梨県立文学館 甲府市貢川 1 丁目 5-5-35	山梨県社会教育研究所様主催の教育問題研究会にて、ひがしちこ子ども食堂の活動の事例発表を行いました。 参加者 12 名 育みの会 内藤

平成 29 年 8 月 5 日 10 時～11 時	櫛形生涯学習センター 南アルプス市小笠原 1060-1	山梨県社会教育研究所主催の公開研究会の場でひがしちこ子ども食堂の活動の紹介を行いました。 参加者約 200 名 育みの会 内藤、山川
平成 29 年 9 月 6 日 15 時 30 分～ 16 時 30 分	山梨県立文学館講堂 甲府市貢川 1 丁目 5-5-35	山梨県社会教育課主催の指導者研修会にてひがしちこ子ども食堂の活動の事例発表を行いました。 参加者約 120 名 育みの会 内藤、山川

※事例発表の際に使った資料を別紙にて添付



事例発表の際の写真

④ 児童養護施設の退所者支援事業について

連携先の甲府市下飯田にあります、社会福祉法人山梨櫻の会「児童養護施設あいむ」様の入居者についての事業を行いました。

平成 28 年 12 月 4 日（日）午後 3 時くらいに、こども食堂ネットワークから情報頂いた茅ヶ崎の NPO もったいないジャパン様よりレッグウォーマーをご支援頂き、入居の子ども達向けに寄付しました。（写真）

平成 28 年 12 月 14 日に小名木施設長より打診があり、平成 28 年 12 月 22 日に小名木施設長、横田職員、内藤山川で会議を行い施設で開催するよりも施設の外で子ども達が交流することが良いという事になり、平成 29 年 1 月よりひがしちこ子ども食堂への参加をして頂く事になりました。今年度退所する子ども達については、居場所作り事業であります「育み家あさけ」を活用することで、社会での孤立の抑制に繋げていく方向としました。



そしてこども食堂への支援者様とも相談し、食料の支援も実施しました。

退所者支援については、3月29日にこども食堂ネットワーク様を通じて頂いた「ミネラルウォーター」や「インスタント味噌汁」の食料支援を実施しました。

結果としては、育みの家あさけに結び着くことはできませんでしたが、入所している子ども達との交流が生まれ、社会勉強や社会交流に繋がった点が挙げられます。

平成29年6月10日に児童養護施設あいむの子ども達5人と引率者を育みの家あさけに招き、家庭的な調理体験を実施しました。一般家庭の雰囲気を持った育みの家あさけでの体験は好評でした。



平成29年9月18日には児童養護施設あいむ様主催の「池田ふれあいマルシェ」への出店依頼を受け、入所している子ども達と一緒に「たこ焼き」を作って販売いたしました。食事を作り提供するという一連の流れを体験してもらい、退所した際の貴重な体験として実施いたしました。

5個入り100円で提供をし、こども達の協力のもと96人前を作り販売いたしました。



マルシェへの出店の様子

⑤ おとな食堂の開催について

平成 28 年 10 月 25 日の事業採択を受け、賃貸物件を不動産屋を通じて探し始めました。

条件としては

- (1) 車の通りが激しくないところ。
- (2) 駐車スペースが 2 台以上確保できる。
- (3) 調理スペースが衛生的に保たれている。
- (4) 甲府市立東小学校、甲府市立善誘館小学校から歩いて行ける所。
- (5) 二部屋以上あるところ。

この条件に見合う物件を探すのに、平成 28 年 11 月 7 日までかかり、契約等手続きに 11 月 30 日までかかりました。また法令関係の確認、必要備品の購入等の時間を要し、スタートが切れるのは平成 29 年 1 月になりました。





設備が新品という事で、11月30日付けて賃貸契約を結びました。

「活動内容について」

当初計画よりスタートが4か月延びてしましましたが、平成29年1月より月1回開催でおとな食堂をスタートします。期間を当初平成28年9月～平成29年3月でしたが、平成29年1月～毎月1回に変更し、相談しやすい環境作りをし、支援を実施してまいりました。

またチラシを作成し、地域自治会、行政へと発信をしてまいりました。(別表チラシ参照)

賃貸物件については、「育みの家あさけ」と名を打ち、地域に馴染める様に配慮しました。

また、この家を開放するにあたり、安心安全に利用して頂けるように、規程類とICカードでの利用状況を確認できる仕組み作りを行っております。子ども、そして保護者が安心安全に利用できるには、今子どもがどこに居るのか、子どもが帰宅に向かっているかどうかを、メールで通知する仕組み作りが必要でありました。

法人として、検討をし、グローブコム株式会社様が無償で提供して頂けるシステムの「スマートタイムス」<http://www.smarttimes.jp/> を導入し利用の促進を図ってまいりました。

戸建の物件ではございますが、調理等の火を使いますので地元消防団と確認作業をしながら、必要備品の調達を行いました。

大人食堂については、平成29年3月29日と平成29年5月3日の2回開催しました。



事前の募集等行いましたが、この活動は不定期開催となってしまい、継続が難しかったです。

平日、日中はスタッフが滞在していたおかげで、子育て相談、こども達の来訪等があり居場所的に確立しつつあった中で、甲斐市社会福祉協議会様との連携によって「不登校児の支援活動」が生まれました。前述した環境の良さと施設ではなく、借家という部分で好評でした。

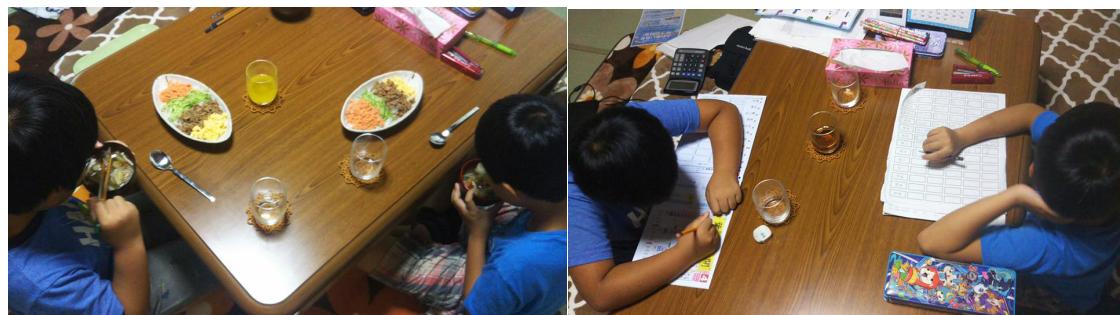
また山梨県立北病院との繋がりも生まれ、6月～9月末で延べ人数で14人の不登校支援に繋がりました。

<繋がった理由>

- ① いきなり学習支援や就労支援といった施設には不登校のこどもは参加しない。
- ② 段階を踏んで、①の施設利用につながる。
- ③ こども達の自立心や興味をひくには食育や調理活動が良いと評価を頂く。



甲斐市社会福祉協議会基幹センターの皆さん



定期的に不登校のこども達が来訪するようになりました。こども達から学校や家庭に居場所がない状態と聞かれました。彼らは山梨県内の不登校支援の活動場所を転々としているのが分かりました。

保護者から、こども達が学校へ行かないと就業もできない事と、仮に就業出来ても非正規雇用等のパート労働者の枠しかないと話されていました。この支援は保護者の就労支援にも繋がると実感したところです。

現在も甲斐市社会福祉協議会様から不登校の子2名の受入をお願いしたいとの依頼を受けており、今後もこの活動を継続してまいります。



みんなの居場所

育みの家あさけ

一般社団法人 育みの会

地域の皆さんと共に食育を通じ、地域のコミュニティとしてオープンします。

「育みの家あさけ」は、内閣府の子供未来応援ネットワーク事業の採択を受け設立しました。

家ではない、学校ではない、子ども達の第3の居場所としてオープンします。

育みの家あさけは、地域で子育てをするお家です。

様々な社会体験ができるよう活動のメニューを多数用意してお待ちしております。



<主な活動メニュー>

ひがしちこ子ども食堂プラス

毎月2回開催

みんなで一緒に料理を作ろう！！

○月
△日

S A パンク

ご家庭の遊休品の文房具や学校用品を集めて

日直

みんなでシェアする活動です。



おとな食堂

月1回、保護者対象に行う活動です。



ひがしちこ子ども食堂もやっているよ！！
ぴゅあ総合で調理体験しながら、みんなで楽しく食べたり
遊んだりします♪毎月隔週土曜日の午後4時からやっています。
参加料:大人300円・子ども(高校生まで)無料

○月
△日



ひがしちこ子ども食堂はこども食堂
ネットワークに加盟しております。

日直

こども食堂ネットワーク・<http://kodomoshokudou-network.com/>

こども食堂ってなに？

「今晚のご飯はボク1人なんだ」「お母さんがお仕事の日はお弁当を買って食べるの」そんなとき、
子どもが1人でも入れるのが“こども食堂”です。栄養満点の温かいごはんをつくって待っている
のは、近所のおじちゃん、おばちゃん、お姉さん、お兄さんたち。
一人で食べるより、みんなで一緒に食べることが楽しいよ。
それが全国で広がっている「こども食堂」の活動です。

○月
△日



(出典:こども食堂ネットワーク)

ひがしちこ子ども食堂ってなに？

平成28年3月16日から行っている、食育を中心とした交流活動です。

みんなで一緒に調理をして、みんなで一緒に食べる活動です。

そして調理体験を通じて、子ども達が将来大人になった時に、一人でご飯が作れるように教えて
いく活動です。



おとな食堂ってなに？

保護者を中心に調理をしながら、子育てや家庭の悩み、食事をしながら語り合う活動です。

⑥ 学校用品のリサイクル事業の SA (School article) バンクの開催について
Facebook、ホームページ、LINE での呼びかけにより、文房具品、学校用品が集まりました。
山梨県内を始め、県外からも集まり、延べで 30 名の保護者や支援者から寄付を頂きました。
意外と多かったのは、衣服類の寄付がありました。中学校の制服、ランドセルについては、学校側から予約の要請があり、ストックした在庫については、平成 29 年 12 月に小学校へ引き渡す予定です。
理由は 12 月に個別懇談があり、その際に生活に困窮している世帯に対して学校側からアプローチをし、対象者へ配布する形が良いと学校長から助言を頂いたためです。

SA/バンクってなに？

～「もったいない」を「あいがとう」へ～

ご家庭に眠っている学校用品や文房具を集めて、シェアする活動です。

SAとは育みの会が名付けました活動です。

Sは SCHOOL(学校)SHARE(シェア)の英語の頭文字からといました。

Aは ARTICLE(物品、品物)、AID(援助、助力)の英語の頭文字から取りました。文字通り、学校用品をシェアし、援助する活動です。

<集めるモノの例>

※文具は基本未使用品に限ります。

進級すると漢字ノートのマス目が変わってしまい、進級した際には使えない
ので、しまっておいたノート鉛筆、消しゴム、絵具の色等

着れなくなった制服、学年帽子、体育着、ランドセル、学校指定のカバン
不要になった学習机等々。



どうやって集めるの？

育みの家あさけに持ってきていただけるか、ご一報頂ければ引き取りに伺います。



誰に配るの？

いろいろな事情で生活に困っている子どもがいる家庭や、子どもが生活している
施設等にお配ります。

支援先

甲斐市内の生活困窮世帯に 2 回配布

内容：連絡ノート、消しゴム、鉛筆

甲府市内の小学校 2 回配布

内容：連絡ノート、学習ノート、衣服、インスタント味噌汁、消しゴム、2B 鉛筆、鍵盤ハーモニカ
習字道具

甲府市内の火事で被災した児童

文房具類、ランドセル、コップ、サブバック、衣服

児童養護施設あいむ

男子の衣服、女の子の衣服、ぬいぐるみ

活動として定着させるのに、まだまだ時間がかかると感じていますが、甲府市内の小中学校に対しては PTA 活動で顔なじみの関係を作っており、年末にかけて集めたモノを配布し、活動の拡大を狙ってまいります。



実際に配布した支援品の写真

出てきた社会課題

甲府市の西地区において、貧困状態の児童が多い。

対象小学校校長より頂いた情報

- ① 全児童 170 人のうち 30%が生活困窮状態にあり、学校用品が買えない状態
- ② 全児童 170 人のうち半数が朝食を食べていない
- ③ これら対象者に教職員が自ら用意した食事を提供している
- ④ 長期休み明けは児童がやせ細ってしまう

ボランティアスタッフからの情報（対象地区の自治会長の談話）

- ① この地域は犯罪（スーパー、コンビニでの万引き）が多い
- ② 支援しようにもどうしたら良いか判断がつかない

これら社会課題の解決策を行うには、継続的な支援が必要であり、学校というプラットフォームを利用し繋げていく事が必要と実感しました。現状ではまだ入り口に到達しただけであり、今後の活動の課題となりました。

「メディア掲載」

平成 28 年 12 月 25 日付けの山梨地元新聞「山梨日日新聞」朝刊

ひがしこ子ども食堂の活動について掲載されました。(出典：山梨日日新聞・孤人社会第 6 部貧困の淵で⑤)



平成 29 年 1 月 5 日付けの「山梨日日新聞」朝刊



平成 29 年 4 月 18 日付け「山梨日日新聞」朝刊



平成 29 年 4 月 24 日付け「朝日新聞山梨版」朝刊





かわせみ
KAWASEMI

7.1 | vol.1396 2017 | 土曜日発行

発行: 山梨日日新聞社
企画・制作: タウン企画 (〒400-8545 甲府市北口2-6-10)
TEL 055-231-3195 FAX 055-231-3196
ホームページアドレス: <http://www.town-pap/>

この店にこの味
・井戸端セミナー 3
・熱やかジェルネイキル 4
・うきの花道勢 5
・シェフがいく 5

・この店にこの味 3
・井戸端セミナー 3
・山を歩いて花に出会う 6
・ペッソと育ラズ 7
・エッセイ 7
・VF甲府通店 島川 俊郎 7

ひがしちどりこども食堂
KAWASEMI

みんなで作って一緒に食べよう！

一般社団法人「育みの会」
ひがしちどりこども食堂

土曜日の夕方、おひつとうな
匂が部屋いっぱいに広がる甲府
市は、男男女共同参画センターの
施設には、子どもたちの元気
な声が飛び交っている。
一般社団法人「育みの会」の元
代表理事、上田の實右介さん
(49)は、「ひがしちどり子」と
名づけた、全国の「ひがしちどり」
のひがしちどり食堂で、十
分な準備がなされたままだ
ばかりの「ひがしちどり」。内
閣官房副報道官の佐藤洋二郎
さんによると、「ひがしちどり」
は、毎月1回、山梨県の農事組合
連合会で開催される「ひがしちど
り」の活動である。この活動は、
「ひがしちどり」の活動を通じて、
地域社会とのつながりを強め、
地域活性化につなげることを目的
としている。

「ひがしちどり」は、甲府市内
の小中学生を中心とした約100人
の子供たちが、毎月1回、甲府市内
の農家で、地元の野菜や果物を購入
して、その野菜や果物を使って、食
べる。また、地元の農家が、その野
菜や果物を販売する。この活動は、
「ひがしちどり」の活動を通じて、
地域社会とのつながりを強め、
地域活性化につなげることを目的
としている。

「ひがしちどり」の活動は、毎月1回、
甲府市内での開催である。この活動は、
「ひがしちどり」の活動を通じて、
地域社会とのつながりを強め、
地域活性化につなげることを目的
としている。

新聞等での掲載により活動の認知度は上がりました。

ボランティアをしたい、食材の寄付等の問い合わせが増えました。

全体の振り返り

<反省点>

スタッフの確保が難しく、実行のスピードが遅くなってしまい当初計画より遅れてしまった。

これにより計画変更等を余儀なくされた。

<これから活動について>

こども食堂の活動、SA バンクの活動については継続してまいります。

事業の期間内で、子供の未来応援基金より支援をして頂いたことにより、新しい社会課題の発見と、山梨県全域でのこども食堂の活動を広めていく事が重要であると実感しました。

現在でもこども食堂をやってみたいと申し出する方も出てきており、都留市、富士河口湖町、甲州市からの問い合わせもありました。私たちが築いてきた活動について、レクチャーし全県規模に拡大していきたいです。

活動を通じて分かったことは、貧困状態の裏には、児童虐待の問題、不登校や心の問題を抱えるこども達が多いということが分かってきました。

活動の継続に関しては、法人としての単独事業では現状難しく、資金面、スタッフの確保が急務であると実感しております。

山梨県事態の世帯収入は約 461 万円ではありますが、市町村によって収入の格差がございます。

甲府市は約 317 万円、甲斐市約 300 万円（2016 年総務省発表の統計資料より）となっており、相対的貧困の指標とされている収入 244 万円（親子 4 人世帯）と近い数値にあり、離婚、病気、障がい等の要因が発生することにより、貧困状態に陥りやすい地域であると言えます。貧困状態から脱することも重要ですが、貧困に陥らない予防も必要な状況であり、地域の関係性をつなぐ活動を今後も実践してまいります。

以上、平成 28 年度子供未来応援ネットワーク事業の結果報告となります。

子ども達の笑顔のためにスタッフ一同邁進してまいります。

今後ともご協力、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

平成 29 年 9 月 30 日

一般社団法人 育みの会

代表理事 内藤 陽一

〒400-0862

山梨県甲府市朝氣 3 丁目 23-1

電話 090-8314-2797

MAIL・hagukumiyamanashi@gmail.com